

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 26-001

PDCA	事務事業名	住宅維持管理事業	部課等名	建設部建築課住宅施設担当	担当 内線等	若林 462	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節：第2節 都市基盤の整備 基本施策：2. 住宅・住環境整備 単位施策：(2) 住宅セーフティネットの維持 個別施策：①住宅困窮者への供給維持					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	市営住宅（全900戸）の老朽化等に対する維持管理を適切に行い、安全で安心できる住環境を整備することで入居率の向上を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	入居中・退去後の室内修繕を効率的かつ的確に行うとともに、入居者の生活維持に必要な消防設備・エレベーター等の保守点検委託業務を適正に行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①既設住宅維持補修工事件数	293	239	173	件	
		②空家修繕件数	278	224	85	件	
		③設備保守点検等委託件数	10	10	10	件	
		事業費	72,643	75,147	67,104	千円	
		人件費	19,471	18,126	18,192	千円	
		総事業費	92,114	93,273	85,296	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	市営住宅入居戸数目標達成率	89.7	97.2	93.3	%		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①市営住宅入居戸数	実績値	716	700	672	戸
			目標値	800	720	720	
			実績値				
			目標値				
実績値							
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	
	事業の評価・課題	C					
		入居より退去が上回る状況が続き、前年度の入居戸数を維持することができず、目標値を下回る結果となった。令和元年度に改定した「半田市営住宅長寿命化計画」では、将来の需要戸数が減少していく予測であるため、今後は、移転と新規募集を精査し、計画的に入居戸数を管理していく必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
		「半田市営住宅長寿命化計画」に基づき、維持管理に必要な修繕等を実施し、市営住宅廃止事業への影響を踏まえたうえで、入居戸数を計画的に管理していく。					
令和3年度の目標		成果指標	目標値		単位		
		①市営住宅入居戸数	660		戸		
		②新規入居者数／新規募集件数	30		%		